

研修会報告

2019年2月4日

分責：血液部門長 大久保 礼由

血液部門研修会

研修会テーマ「血液疾患を血液データ・塗抹標本から読み取る」

開催日時 平成31年2月2日(土) 14:00～17:15

会場 東北大学医学部6号館講堂

【講演・講師】

1. 「血球計数の変遷と血液検査のピットホール」

アボットジャパン株式会社 ヘマトロジービジネス推進室 白神 健二 先生

2. 「血液像を【みる】」

東北大学病院 診療技術部検査部門 菅原 新吾 先生

3. 「造血器悪性腫瘍の検査～標本作製から報告まで～」

岩手医科大学附属病院 中央臨床検査部 千葉 拓也 先生

日臨技生涯教育研修制度 専門20点

参加者 会員39名、賛助会員0名、非会員1名

実務委員8名、県内講師1名、県外講師1名、賛助会員講師1名 計51名、

【内容】

今回の血液部門研修会では、『血液疾患を血液データ・塗抹標本から読み取る』をテーマに開催した。我々検査技師は、ただ医師の指示通りに検査をするだけでなく、血液データ・塗抹標本から必要な情報を取得し、疾患へと結びつけることが重要である。そうすることで、医師への追加検査依頼やアドバイスが可能な検査技師・検査室が増えることを目的に本研修会を企画した。

講演1では、血算機の原理、データの見方について、講演していただいた。血液検査技師は機械の仕組みを理解していないと検査過誤を把握できないため、原理からお話ししていただいたことは非常に有益であった。

講演2では、血液像の見方について講演していただいた。血液像をやる検査技師は、必ず同定困難な細胞と遭遇する。その場合、どういうプロセスで細胞同定していくのか、検査技術の面だけでなく哲学的な考え方まで科学的にお話しいただき、今後の鏡検に有用であった。

講演3では、造血器腫瘍の検査について、検査の流れすべてを簡単にご講演頂いた。日常検査におけるアドバイスや日常で遭遇する症例などを示していただき分かりやすい解説であった。骨髓像までふれる内容もあったため、経験のない技師にとっては少し

難しい内容であったかもしれない。

本研修会の内容は、実際の臨床検査業務に有益な内容であった。聴講者のアンケートからも「分かりやすく、とても勉強になった」という声もあった。一方で、「難しい内容であった」という声もあった。実際に難しい内容もあったが、臨床における血液検査の話聞いて、知識や技術のスキルアップを目指す技師が宮城県内でも増えてくることを期待する。アンケートの内容を踏まえ、来年度は基礎の研修会とアドバンス研修会を分けて開催することも考えていきたい。